

事前評価個表

整理番号	10
------	----

地域（地区）名	ちくまがわりゅう 千曲川下流	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	長野県	対象市町村	長野市ほか 14 市町村
事業実施期間	R7 年度～R11 年度（5 年間）	事業実施主体	県、市町村、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	本地区は、長野県の北部に位置し、長野市ほか 4 市 5 町 5 村を包括する。 本地区の森林面積は 179 千 ha（森林率 70%）、対象民有林は 130 千 ha（森林全体の 73%）である。このうちスギ・カラマツを主体とする人工林は 53 千 ha（人工林率 42%）となっており、県平均の人工林率 50%より低く、天然林が多い地域となっている。 人工林の齢級構成は、戦後の拡大造林等により高齢級に偏りが見られ、間伐の対象となる 3～12 齢級までの森林が 43%を占めており、主伐期を迎えた 13 齢級以上の人工林は 57%となっている。このため、健全な森林を育成していく上で、間伐や適切な更新、確実な再造林等の森林整備が必要となっている。 また、本地区では、高性能林業機械の保有台数や雇用日数の増加等、森林整備に必要な作業体系の確立に向けた取組が行われているところであり、今後、主伐の増加が見込まれることから、低コストかつ確実な再造林が求められている。 このため、本地区では、千曲川下流地域森林環境保全整備事業計画を作成し、意欲と能力を有する林業事業体等による計画的な森林施業の実施を促進する。また、森林の有する水源涵養等の維持増進を図り、森林資源を有効活用した効率的な施業に資するため、本事業により再造林や搬出間伐等の必要な森林整備を計画的に実施するものである。
事業内容・事業費	森林整備：4,300ha 人工造林、下刈り、枝打ち、除伐、保育間伐、間伐等 総事業費：2,588,473 千円（税抜き 2,353,157 千円）
費用便益分析結果	$B/C=5.07$ （総便益（B）＝24,686,399 千円、総費用（C）＝4,872,148 千円）
評価結果	必要性： 森林の有する水源涵養等の公益的機能の高度発揮のため、間伐や適正な再造林等の森林整備が求められており、事業の必要性が認められる。 効率性： 費用便益分析の結果から十分な効率性が認められるとともに、本事業を活用した計画的な森林整備により効率的な施業が図られることから、事業の効率性が認められる。 有効性： 計画的な森林整備と林業専用道の整備による効率化を推進し、森林資源の有効活用を図るための事業であり、有効性が認められる。

便 益 集 計 表

（森林整備事業）

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：長野県

地域（地区）名：千曲川下流

（単位：千円）

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	7,252,101	
	流域貯水便益	1,574,412	
	水質浄化便益	6,512,833	
山地保全便益	土砂流出防止便益	7,597,304	
環境保全便益	炭素固定便益	194,687	
木材生産等便益	木材生産確保・増進便益	1,555,062	
総 便 益 (B)		24,686,399	
総 費 用 (C)		4,872,148	
費用便益比	$B \div C = \frac{24,686,399}{4,872,148} = 5.07$		

参考

費用便益比 (i=0.02)	$B \div C = \frac{46,561,335}{8,376,807} = 5.56$		
費用便益比 (i=0.01)	$B \div C = \frac{68,628,655}{9,281,390} = 7.39$		

森林環境保全整備事業 千曲川下流地域（長野県）概要図

